

# インフラ投資は新興国の経済成長加速のカギ ～「成長の好循環」が期待されるユーラシア圏～

新興国は、相対的に高い経済成長を続けているものの、交通網や電力供給をはじめとするインフラ整備の遅れがさらなる成長にとっての足かせとなっているケースが少なくありません。この背景として、財政基盤が脆弱なため、公共投資を十分に行なえないことなどが考えられます。こうした中、中国が提唱する「一帯一路」構想で掲げられているインフラ投資と、これを資金面で支えるAIIB(アジアインフラ投資銀行)は、アジアから欧州にかけての広大な地域、ユーラシア圏の成長の加速に貢献すると期待されます。

インフラ投資には、生産活動の創出や雇用の誘発と、それらに伴う所得増加を背景とした消費の拡大などにより、短期的に景気を押し上げる効果があるとされています。さらに、実際にインフラが完成し、サービスが提供されるようになると、生活の質や安全・安心、生産性などが向上し、家計の消費や企業の投資を促す形で、中長期的にも景気を押し上げる効果が期待されます。

なお、国連の「世界都市化予測2014」によれば、人口100万人以上の都市の数は、2015年から2030年にかけて世界全体で161増加し、662都市となる見通しで、こうした増加の半分以上をアジア(87増加し、354都市)が占めるとされています。中でも中国での増加(43増加し、148都市へ)が顕著で、2030年には中国一国だけで先進国全体の133都市を上回ると予測されています。

こうした都市化による人口集中の動きと、「一帯一路」構想やAIIBによる融資などを背景としたインフラ投資の活発化に伴う社会基盤整備の進展とが相俟って、ユーラシア圏の新興国では、「都市化の進展」→「利便性の向上」→「人口集中および産業の集積・発展」といった「成長の好循環」が生じる可能性が高まると期待されます。このため、相対的に高い経済成長の持続ないし成長の一段の加速が見込まれることなどから、世界経済の牽引役として、ユーラシア圏の注目度が高まると考えられます。

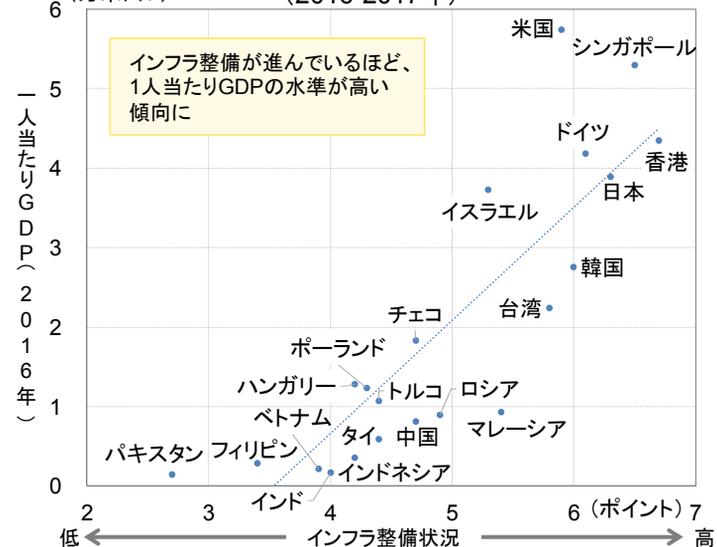
## 主要国のインフラの評価(138か国中の順位)

(2016-2017年)

	インフラの総合評価	主要インフラ別の質の評価				
		道路	鉄道	港湾	航空輸送	電力供給
中国	42	39	14	43	49	56
インド	68	51	23	48	63	88
インドネシア	60	75	39	75	62	89
マレーシア	24	20	15	17	20	39
フィリピン	95	106	89	113	116	94
ロシア	35	123	25	72	65	62
タイ	49	60	77	65	42	61
トルコ	48	28	55	52	29	84
日本	5	5	1	22	24	15
米国	11	13	13	10	9	17

## 主要国・地域のインフラ整備状況\*と1人当たりGDP

(万米ドル) (2016-2017年)



\*WEF「国際競争力ランキング2016-2017」における評価

出所: World Economic Forum (WEF)「国際競争力ランキング2016-2017」 WEFおよびIMFのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成  
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。